

学校防災アドバイザー派遣・活用事業の取組について

防災マップづくりを中核に据えて防災教育

飯綱町立飯綱中学校

1 本校の防災教育について

本校の「いいづなタイム（総合的な学習の時間）」では、2, 3 学年でそれぞれ職場体験学習と中学生議会を体験活動の中核に据えるキャリア教育「未来へのパスポート」、主権者教育「15歳の提言」の学習に取り組み、学校教育目標「自主」「友愛」「剛健」の具現を図ってきている。

しかし、それらの学習を支える 1 学年の総合的な学習は、これまで地域学習等に取り組んできたが、時間数が 50 時間に限られていたり、地域の特性から冬場に校外での学習を行うことが難しかったりするなどの困難点があった。

そこで、生徒会が東日本大震災で原発事故が起こった福島への支援を取り組んできた経緯もあり、平成 29 年度から 2 年間 1 学年後期の総合的な学習の時間で防災教育「震災～故郷への思い～」を実践してきた。自分たちが日常生活を送る地域の自然災害に目を向けて、町のフィールドワークを通して、防災マップを作成し、自分たちがどう行動したらよいかを考え、防災意識の向上を図ってきた。

今年度は 1 学年の総合的な学習は新たな題材に取り組んだこともあり、防災マップづくりを 3 年生の総合的な学習での選択講座で行うとともに、日常での防災への取り組みを見直し図った。さらには学区内の小学校との連携を図った取組を試行し始めた。

2 今年度の主な取り組み

- 飯綱中学校防災防犯マップの作成
- 地区生徒会の見直し ～防災防犯班の設立～
- 地域との連携
- 防災マップの見直し
- 小中の連携

3 今年度の取り組みの様子

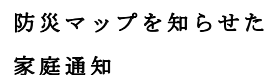
(1) 「飯綱中学校防災防犯マップ」の作成

2 年間、生徒が作ってきた防災マップだが、日常生活では活用されておらず、また大雨の降ったときも、防災マップを意識した生徒は少なく、いざというとき「生徒自身も活用できないのではないかと？」と感じられた。

また、本校は防犯マップを所有しておらず、防犯に関わる情報は家庭にメールで送られるシステムになっているが、流された情報はその後利用されていな

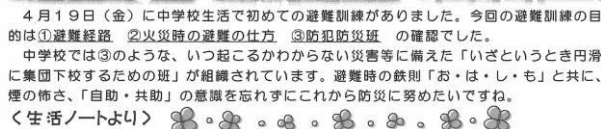
そこで、生徒が作った防災マップをベースに、職員が家庭に通知した防犯上のデータを合わせて、「飯綱中学校防犯防災マップ」として家庭に通知して、防災マップの活用を図った。

さらに、何よりも生徒たちの学習の成果を各家庭で利用できるという生徒にとっても励みになる取り組みになった。



少子高齢化が進むなか、地区生徒会の活動が従来通りの活動として運営していくことが難しくなっている。本校ではこれまでにいくつかの地区を一つにまとめるなどの対応をしてきたが、地区同士が遠すぎて、日常生活では生徒同士のかかわりがほとんどない地区もある。

共同して、協力いただける町のいきいきサロンを7月に一斉に開催していただき、全校生徒が自分の地区のサロンを中心に参加した。



避難訓練がありました。今日は火事の場合でした。放送はよく聞けました。初めてだったので、どう動いたらいいのかわかりませんでしたが、しっかりと行動できました。

あと、先生の話でおどろいたことがあります。一酸化炭素で倒れることは知っていましたが、倒れて死んでしまうことが多いということを知りました。できるだけ火を避けて逃げようになりたいと思いました。

たい」 との声が挙がった。

今年度は第1回のみであったが、来年度以降

は避難訓練時には毎回メンバーを確認し、さらには小中合同の引き渡し訓練の実施など、連携も模索していきたい。

(3) 地域との連携

6月に町社協が行う行事「いづなふれあい広場」が行われた。東日本大震災で被災した福島の支援を行っている「いづなミツバチの会」からの誘いもあり、デジタル安心安全マップをブースに展示することにした。

当日は2年間、総合的な学習の時間でお世話になった福島で被災された木村さんも来場される中、2年間の学習について生徒に発表してもらった。

☆地域のイベントにて～防災マップの取り組み＆吹奏楽部発表～☆

6月29日(土)に町民会館にて開催された「いづなふれあい広場」では、昨年度までの総合的な学習の時間に学習を進めてきた町内防災マップづくりに関する発表が代表生徒3名により行われました。専用ブースにて実際のマップを公開しました。

また、吹奏楽部も演奏参加し、会場を沸かせました。



飯綱中学校「デジタル安心安全マップ」のご案内

総合的な学習の時間に子どもたちが収集・整理した安全に関する情報に加え、学校からの安全に関する情報もその都度更新しております。

<http://www.platform.or.jp/map/map/?cid=3&gid=87&mid=544>

ユーザーID: iizuna_editor パスワード: dPVDduIk



学校通信
より

防災マップづくりの活動を行って

飯綱中学校ではいづなタイム(総合的な学習の時間)で、「震災～故郷への思い～」と題し、飯綱町の防災マップづくりをしました。この活動に取り組んだ理由は、東日本大震災など、自然災害が多い日本だからこそ、自分たちの住んでいる地域をもう一度防災の観点で見直し、防災について深く考えなければならいと思ったからです。

防災マップを作る前に、実際の自然災害はどれほど恐ろしいものか学ぶために、木村紀夫さんからお話をお聴きしました。木村さんのお話から様々な被害をもたらす地震の恐ろしさを改めて知り、実際に体験した方にしかわからない気持ちまで知ることができました。今まで自分たちには関係がないと思っていた大災害ですが、どこでも起きる可能性があると感じることができました。

防災マップづくりでは、自分たち自身が町に出てまわり、各地で地震、大雨などの災害が起こったとき、危険な場所を見つけたり、避難するときの経路を考えたりしました。

危険な場所は主に、崩れそうな地形の所や、大きな水たまりができそうな坂道の所などで、避難経路を考えるときは、そのような場所を避けて通る道を考えました。危険な場所や避難経路はインターネット上のひとつの地図にまとめられています。

やってみての感想は、いつも何気なく歩いている道を改めて見ると、危険場所が多くて、そこを避けて通る避難経路を見つけるのは大変でした。つくったマップを今後飯綱町で過ごしていく中で、大雨や地震などの災害が起きたときに、有効に使えるようにしていきたいと思います。

私たちはこの学習を通して、防災意識が高まりました。防災マップづくりで自分たちの地域は「ここが危険なんだ」や、この場所を通ると「安全だ」と気づくことができ、次につなげることができました。また、「もしもの時」には今回学んだことを生かし、地域の方々をリードし、共に助けるようにしていきたいと思います。

なぜなら、木村さんの講演を聴き、自然災害が多い日本だからこそ、もっと関心を持ち、私たちが今何をできるのかを考え、それをボランティア活動などの行動に移すべきであることを学んだからです。

そして、このように防災について発表できる場などで、今回学んだことを地域の方々など多くの人たちに学んでもらい、飯綱町、そして日本全体で防災についての取り組みを行っていくことが大切だと思います。そのようにすることによって、これからの未来が安心して素晴らしい世の中になると私は考えます。

2019／6／29（土）「いづなふれあい広場」での生徒発表

木村さんの講演は、2年生と3年生それぞれが別な時期にお聴きしているが、同じ学習に取り組んできたため、異学年でも思いが共感できるよい発表になった。デジタル安心安全マップをブースに展示したことは、町内の方々に生徒の学習の成果を示すことにつながった。また、防災マップが町のハザードマップをベースにつくられているため、町内のたくさんの方に自分の地域のハザードマップを確認していただくよい機会になった。今後、常時、町の中で防災マップを確認できるような方法を模索したい。

（4）防災マップの見直し

3年生の総合的学習では中学生議会を中核とする主権者教育「私の飯綱町～15歳の提言～」に取り組んでいる。7月にはより町について知る活動の一環として、各教科で講座を開き、教科の学習と関連する内容を学習した。

理科では「自分の通学路、避難場所の安全を考えよう」をテーマにして、理科の地層の学習と絡めながら、以下の課題を追究しながら地域を巡り、防災マップを作成した。

課題 1) 自分の通学路、住んでいるところの周囲、避難場所となる公民館までの道など、自分が利用する場所にこのような地形はないだろうか。また、地滑りの危険地帯として指定されている場所になっていないだろうか。

課題 2) 北国街道など古くからあった道が川を横切っている場合、橋の高さが低い場合がある。このような橋は大雨の時に水がかり、この場合、通行不能になってしまう恐れがある。自分の通学路や避難所への避難経路にこのような場所はないだろうか。

課題 3) 地下に断層があって地上まで現れている場合は崖となっている場合がある。飯綱町は飯縄山などの火山灰が堆積しているため、地下に断層があるかどうかははっきりしていない。ところが飯綱町では江戸時代に大きな地震による被害があった記録がある。このような場合は地上に直線上の地形があったり、地下からの力で道路やコンクリートの構造物に割れ目やひびが入る場所が直線上に存在する場合がある。

3 学年の生徒は 1 年時に防災マップを作成してきた生徒たちである。さらに理科の学習と関連させながら学習したことで、教科の学習と総合的な学習の関連により一層理解が深まり、また教科学習の有用性を生徒が実感できる場面になった。

今後、防災マップを作成する上で、教科学習との関連をさらに深めて学習を展開することで、より教科横断的な総合的な学習を展開していきたい。

(5) 小中の連携

防災マップのシステムを小学校にも広げていくため、学区内の二小学校でも利用できるように研修会を開いた。

小学生にはデータの見直しは難しいのではないかと感じていた先生もいたが、実際に操作してみて、小学生でも十分編集できることを実感した研修会になった。

今後、さらに小中の連携を図り、防災マップを町全体で活用できるものにしていきたい。



4 事業の成果及び今後の課題

今年度、防災教育について職員の中で共通基盤をつくるために、2 学期に全職員で廣内先生の講演をお聴きした。また、昨年度、設立した「飯綱町学校防災防犯推進委員会」を今年度も引き続き開催した。校内で防災教育に関わる共通理解ができてきている。さらには町全体で共同して防災に関わる取り組みを実践する気運も高まってきている。

10 月には本県でも台風 19 号の影響で、想定外の災害が起きている。防災教育は待ったなしで、より現実味をもって取り組んでいかなければならない。

通学区が広範囲の本校では中学校単独の引き渡し訓練は意味がないので、来年度は小中合同での引き渡し訓練を行う予定である。今後さらに職員全体で共通意識をもって防災教育に取り組むとともに、町内の小学校、町内の関係機関とも連携を強化して防災教育に取り組んでいきたい。

(文責：飯綱中学校 総合的な学習の時間係 伊藤秀雄)